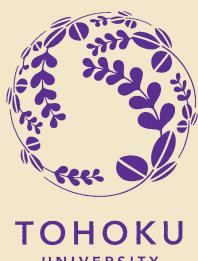
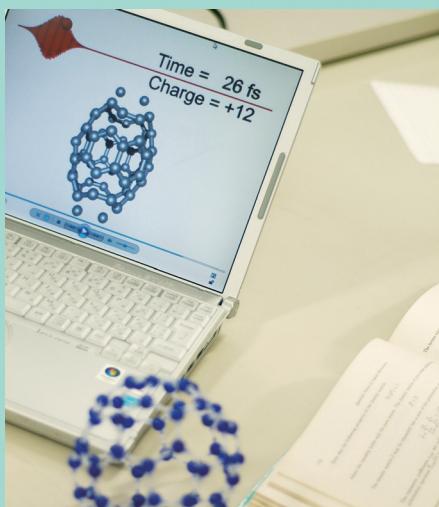


東北大学大学院理学研究科・ 理学部概要



GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE
FACULTY OF SCIENCE

平成22年4月

目 次

概 要	1
沿 革	2
歴代学部長(研究科長)	6
歴代事務長(事務部長)	7
機 構	8
1 大 学 院	8
2 学 部	9
3 事 務 部	9
4 専 攻 及 び 講 座	10
5 学 科 及 び 学 科 目	11
6 附 属 施 設	12
職 員 数	12
学 生	13
1 学 生 定 員 及 び 現 員	13
(1) 大 学 院 学 生	13
(2) 学 部 学 生	14
(3) 研 究 生 及 び 科 目 等 履 修 生	15
2 平 成 22 年 度 入 学 者 選 抜 状 況	15
(1) 大 学 院 学 生	15
(2) 学 部 学 生	15
3 修 了 者 及 び 卒 業 者	16
(1) 大 学 院 修 了 者	16
(2) 学 部 卒 業 者	16
4 論 文 提 出 に よ る 博 士 の 学 位 授 与 者	17
(1) 学 位 令 に 基 づ く も の	17
(2) 学 位 規 則 に 基 づ く も の	17
5 平 成 21 年 度 修 了 者 及 び 卒 業 者 進 路 状 況	18
(1) 大 学 院 修 了 者	18
(2) 学 部 卒 業 者	18
6 連 携 大 学 院 方 式	18
7 外 国 人 留 学 生 数	19

科学研究費等	20
1 グローバルCOE 平成 21 年度研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費（機関補助))	20
2 平成 21 年度科学研究費補助金採択状況	20
学術交流	21
1 研究員等受入れ状況	21
2 外国人研究員等受入れ状況	21
3 学術交流協定校	21
予 算	22
1 平成 21 年度予算額	22
機 械・器 具	22
標 本 等	22
1 標 本	22
2 実験生物系統保存	22
学術研究発表誌	22
土 地・建 物	23
施 設 所 在 図	28
理学研究科・理学部青葉山地区配置図	29

概要

明治 40 年（1907 年）6 月 22 日に東北帝国大学の創立と共に、その分科大学とし理科学院が仙台に、農科大学が札幌に設定された。理学部は、この理科学院に端を発し、本学で最も長い伝統を持つ学部である。

明治 44 年（1911 年）、当時の内務大臣原敬の財政顧問であった古河虎之助並びに宮城県等からの寄付を基礎にして、片平地区に理科学院の建物群が竣工した。同年 9 月、先ず数学・物理学・化学の 3 学科が海外留学から帰朝した初代教授陣をもって発足し、次いで翌 45 年（1912 年）には地質学科が発足した。

大正 8 年（1919 年）理科学院は理学部となり、その後、大正 11 年（1921 年）の生物学科開設をはじめ学科、講座等も次第に拡充され、東京、京都と並ぶ日本の理学教育・研究の拠点として発展を重ねた。昭和 20 年（1945 年）7 月 10 日第 2 次世界大戦末の仙台大空襲によって建物の大部分が焼失するなど大きな被害を受けたが、戦後の学制改革により、昭和 24 年（1949 年）新制東北大大学の理学部として再発足し、昭和 36 年（1961 年）までには建物も復興されて戦災の痛手から立ち直り、新しい発展の時代を迎えた。

昭和 28 年（1953 年）3 月に大学院理学研究科が設置され、数学、物理学、化学、地学、生物学及び地球物理学の 6 専攻が発足したが、昭和 32 年（1957 年）4 月に原子核理学専攻、昭和 33 年（1958 年）4 月に天文学専攻が設置された。更に昭和 37 年（1962 年）4 月及び昭和 39 年（1964 年）4 月に化学第二学科及び物理学第二学科がそれぞれ増設されたことに伴い、昭和 41 年（1966 年）4 月に化学第二専攻及び昭和 43 年（1968 年）4 月に物理学第二専攻が設置され、理学部・理学研究科の教育研究活動は質・量ともに大幅に拡充された。

昭和 44 年（1969 年）から同 54 年（1979 年）にかけて片平地区からの移転整備が推進され、青葉山地区に緑豊かなキャンパスが完成した。更に、平成 8 年（1996 年）から開始された物理研究実験棟の落成により、大きく姿を変えはじめている。当地は西に蔵王連峰を、東に仙台市街をはさんで遠く太平洋を望む高爽の地であり、研究と勉学にふさわしい環境に恵まれている。

平成 6 年～同 7 年（1994 年～1995 年）には、大学院理学研究科の重点化整備が行われ、それに伴い専攻の再編、大学院の大講座化、学部の大学科目化等が進められるとともに、大学院の学生定員が大幅に増員され、従来の理学部 1 部局から理学研究科及び理学部の 2 部局制となった。

現在 7 学科、7 学科目、6 附属教育・研究施設（1 学部内施設を含む。）、大学院理学研究科 6 専攻 28 講座（大講座）と学部収容定員 1,296 人、大学院収容定員博士前期課程 524 人、博士課程後期課程 390 人、教職員 364 人を擁し、我が国の理学部中最大級の規模を有している。

本研究科・学部は、創立以来我が国における理学の教育・研究の一大中心として、17,273 人の学士、8,244 人の修士及び 2,574 人の博士など多くの人材を世に送り、すぐれた研究業績を挙げ社会に貢献してきた。特に、研究尊重の精神は創立以来今日に至るまで絶えることなく受け継がれている。世界のトップレベルにある研究者達が、純理論的研究から様々な新しいアイデアによる実験的研究に至るまで活発な研究活動を展開しており、これら先端研究は極めて多彩である。

一方、大正 2 年（1913 年）に我が国で初めて女子学生の入学を許可するなど、広く内外に門戸を開き、教育・研究を通じて国内及び国際交流も極めて盛んである。多くの教職員・学生の海外への派遣及び外国人留学生、外国人研究者の受入れあるいは国際共同研究の実施や国際学会の主催等が日常的に行われており、理学研究科・理学部の教育・研究内容は国際的にも高い評価を受けている。

昭 21. 4	講座数 36、教授 36、助教授 29、助手 49、事務官 2 地理学科設置（現在の地圈環境科学科）
〃 21. 10	10 代学部長高橋純一（岩石）就任
〃 22. 4	女川に附属女川地震津波地磁気観測所設置
〃 22. 9	政令第 204 号により東北帝国大学は東北大に改められた。
〃 23. 3	仙台臨時教員養成所廃止
〃 24. 3	11 代学部長山田光雄（物理）就任
〃 24. 4	福島県猪苗代町翁島に附属開発地理学研究所設置
〃 24. 5	法律第 150 号により学制改革に伴い国立学校設置法が公布され、新制大学が発足・同時に帝国大学官制廃止、あらたに国立大学として東北大が設置され、理学部には数学科、物理学科、化学科、地学科地学第一、地学科地学第二、地学科地学第三、生物学科、天文及び地球物理学科第一並びに天文及び地球物理学科第二が置かれた。
〃 26. 4	12 代学部長渡辺萬次郎（岩石）就任
〃 27. 3	附属観測所が法律第 22 号により附属地震観測所となる。
〃 28. 3	政令第 51 号により大学院理学研究科設置
〃 28. 4	省令第 9 号により地学科地学第三は、地学科地理学となる。
〃 28. 5	文部省告示第 41 号により理学研究科に数学、物理学、化学、地学、生物学及び地球物理学の 6 専攻を置く。
〃 29. 9	省令第 23 号により本学部に置かれる講座の種類及び数が定められた。即ち、数学 5 講座、物理学 5 謲座、鉄鋼学 3 講座、化学 5 謲座、量子化学 1 講座、地質学 2 謲座、古生物学 1 謲座、岩石鉱物学 2 謢座、鉱床学 2 謢座、地理学 1 謢座、生物学 6 謢座、天文学 1 謢座及び地球物理学 3 謢座が設置された。
〃 30. 3	13 代学部長藤瀬新一郎（化学）就任
〃 32. 4	宮城県蔵王町遠刈田に附属遠刈田夜光観測所設置 省令第 7 号により附属女川地震津波地磁気観測所が官制化され理学部附属地磁気観測所となる。 理学研究科原子核理学専攻設置
〃 33. 4	理学研究科に天文学専攻設置 仙台市青葉区川内に附属青葉山植物園設置
〃 35. 4	省令第 6 号により植物園（従来の青葉山植物園）が官制化され理学部附属となる。
〃 37. 4	省令第 11 号により化学第二学科設置 14 代学部長元村 眞（生物）就任
〃 39. 2	省令第 3 号により数学科改称
〃 39. 4	省令第 12 号により物理学第二学科設置
〃 40. 3	省令第 17 号により秋田県に附属能代地殻変動観測所設置
〃 40. 12	15 代学部長山本義一（地球物理）就任
〃 41. 4	省令第 22 号により附属地震観測所は附属青葉山地震観測所に、附属能代地殻変動観測所は附属秋田地殻変動観測所に改正、八甲田山植物実験所が官制化され理学部附属となる。また、省令同号により仙台市太白区富沢に附属原子核理学研究施設、秋田県本荘市に附属本荘地震観測所新設、理学研究科に化学第二専攻設置

昭 42. 5	省令第 11 号により岩手県三陸町に附属三陸地殻変動観測所設置 省令第 13 号により学科序列のうち天文及び地球物理学科第一、同第二が物理学第二学科の次に入ることに改正された。
〃 43. 4	理学研究科に物理学第二専攻設置
〃 44. 3	16 代学部長加藤陸奥雄（生物）就任
〃 44. 6	省令第 18 号により岩手県遠野市に附属北上地震観測所設置
〃 46. 3	省令第 13 号により仙台市青葉区荒巻字青葉（以下「青葉山地区」と略称）に附属泡箱写真解析施設設置
〃 46. 6	16 代加藤学部長が学長に就任、17 代学部長鈴木次郎（地球物理）就任
〃 48. 4	省令第 10 号により附属超高層物理学研究施設が設置され、夜光観測所が附属超高層蔵王観測所となる。
〃 49. 4	省令第 13 号により仙台市青葉山地区に附属地震予知観測センター設置
〃 49. 6	18 代学部長森田 章（物理）就任
〃 51. 6	19 代学部長武田 晓（物理）就任
〃 53. 4	省令第 10 号により仙台市青葉山地区に附属化学機器分析センター設置
〃 54. 3	省令第 8 号により仙台市青葉山地区に附属超低温実験施設設置 開発地理学研究所を福島県猪苗代町翁島より同県猪苗代町芹沢に移転し、新設
〃 54. 6	20 代学部長伊東 檻（化学二）就任
〃 55. 3	省令第 5 号により青葉山地区に附属光エネルギー化学実験施設設置
〃 57. 3	附属超高層物理学研究施設が青葉山地区に設置された。
〃 57. 6	21 代学部長武田 晓（物理）再任
〃 60. 6	22 代学部長小西和彦（生物）就任
〃 61. 3	省令第 12 号により附属超低温実験施設が廃止され、附属極微少エネルギー物理学実験施設が設置
〃 61. 10	植物園記念館が附属植物園内に建設された。
〃 62. 3	省令第 10 号により附属光エネルギー化学実験施設が廃止
〃 62. 5	省令第 17 号により附属青葉山地震観測所が廃止され、附属地震予知観測センターが附属地震予知・噴火予知観測センターに改められ、附属有機ケイ素材料化学実験施設が青葉山地区に設置された。
〃 63. 6	23 代学部長黒田 正（数学）就任
平 元. 5	省令第 24 号により附属秋田地殻変動観測所及び附属本荘地震観測所が附属日本海地域地震観測所に改められた。
〃 2. 4	24 代学部長櫻井英樹（化学）就任
〃 2. 6	省令第 15 号により附属大気海洋変動観測研究センター設置
〃 2. 10	数理科学記念館が青葉山地区に建設された。
〃 3. 4	省令第 19 号により附属三陸地殻変動観測所及び附属北上地震観測所が附属三陸地域地震観測所に改められた。
〃 4. 4	省令第 9 号により天文及び地球物理学科第一、天文及び地球物理学科第二を宇宙地球物理学科に、地学科地学第一、地学科地理学を地圈環境科学科に、地学科地学第二を地球物質科学科に改称
〃 5. 4	25 代学部長田中正之（大気海洋）就任

平 6. 4	省令第8号により物理学第二学科が物理学科に統合・改組 省令第9号により理学研究科物理学専攻、天文学専攻、地球物理学専攻及び地学専攻が整備（重点化）
〃 7. 4	省令第10号により化学第二学科が化学科に統合・改組 省令第10号により理学研究科数学専攻、化学専攻及び生物学専攻が整備（全専攻が重点化）
〃 7. 10	自然史標本館設置
〃 8. 3	附属極微少エネルギー物理学実験施設が時限到来により廃止（東北大学低温センターと統合改組し、東北大学極低温科学センター設置）
〃 8. 4	26代学部長・研究科長荻野 博（化学）就任
〃 8. 5	省令第18号により附属有機ケイ素材料化学実験施設廃止（反応化学研究所附属有機資源・材料化学研究センターに統合・改組）
〃 8. 5	附属植物園本館が建設された。
〃 9. 4	省令第13号により、附属地震予知・噴火予知観測センター、附属日本海地域地震火山観測所及び附属三陸地域地震火山観測所が附属地震・噴火予知研究観測センターへ統合・改組
〃 10. 4	省令第21号により、附属泡箱写真解析施設が研究科附属ニュートリノ科学研究中心に改組・転換 省令第21号により、附属核理学研究施設、附属超高層物理学研究施設、附属地磁気観測所、附属地震・噴火予知研究観測センター、附属大気海洋変動観測研究センター及び附属化学機器分析センターが研究科附属施設に転換
〃 11. 4	省令第12号により、附属超高層物理学研究施設、附属地磁気観測所が附属惑星プラズマ・大気研究センターへ統合・改組 省令第12号により、附属臨海実験所、附属植物園、附属八甲田山植物実験所が研究科附属施設に転換 27代学部長・研究科長佐藤 繁（物理）就任
〃 12. 4	省令第11号により大気海洋変動観測研究センター時限により廃止・新設
〃 13. 4	政令第151号により理学研究科生物学専攻が生命科学研究科に転換
〃 14. 4	28代学部長・研究科長 鈴木厚人（附属ニュートリノ科学研究中心）就任
〃 14. 12	国際交流推進室設置
〃 16. 4	国立大学法人法（平成15年法第112号）により、東北大学は国立大学法人東北大学となった。
〃 16. 4	附属化学機器分析センターを附属巨大分子解析研究センターに改組・整備
〃 16. 4	附属臨海実験所を附属浅虫海洋生物学研究センターに名称変更
〃 16. 4	附属八甲田山植物実験所は附属植物園と統合し八甲田山分園とした
〃 17. 4	29代学部長・研究科長 橋本治（物理）就任
〃 17. 4	附属浅虫海洋生物学研究センターが廃止され、生命科学研究科附属に移行した。 附属植物園が廃止され、学内共同教育研究施設へ移行した。
〃 20. 4	地球物質科学科を地球惑星物質科学科に名称変更 30代学部長・研究科長 花輪公雄（地球物理）就任
〃 21. 12	附属原子核理学研究施設及び附属ニュートリノ科学研究中心が廃止され、学内共同教育研究施設へ移行した。 附属開発地理学研究所が廃止された。

歴代学部長（研究科長）

歴代	氏 名	学 科 等	期 間	備 考
初代	小 川 正 孝	化 学	明 44. 4.25～大 8. 3.31	理工大学長
			大 8. 4. 1～大 8. 6.29	理学部長
2 代	林 鶴 一	数 学	大 8. 6.30～大 12. 6.29	
3 代	日 下 部 四 郎 太	物 理	大 12. 6.30～大 13. 7. 3	大 13.7.3 死去、林前学部長が学部長代理となる。
4 代	藤 原 松 三 郎	数 学	大 13. 7.25～大 15. 7.24	
5 代	真 島 利 行	化 学	大 15. 7.25～昭 15. 7.24	
6 代	小 林 巍	物 理	昭 3. 7.25～昭 11. 7.24	
7 代	窪 田 忠 彦	数 学	昭 11. 7.25～昭 14. 3.30	
8 代	藤 原 松 三 郎	数 学	昭 14. 3.31～昭 15.10. 4	
9 代	小 林 巍	物 理	昭 15.10. 5～昭 21.10. 4	
10 代	高 橋 純 一	岩 石	昭 21.10. 5～昭 24. 3.30	
11 代	山 田 光 雄	物 理	昭 24. 3.31～昭 26. 3.31	
12 代	渡 辺 萬 次 郎	岩 石	昭 26. 4. 1～昭 30. 3.30	
13 代	藤 瀬 新 一 郎	化 学	昭 30. 3.31～昭 37. 3.31	
14 代	元 村 黙	生 物	昭 37. 4. 1～昭 40.11.30	
15 代	山 本 義 一	地球物理	昭 40.12. 1～昭 44. 3.31	
16 代	加 藤 陸 奥 雄	生 物	昭 44. 4. 1～昭 46. 4.30	
17 代	鈴 木 次 郎	地球物理	昭 46. 6.10～昭 49. 6. 9	前学部長、学長就任のため昭 46.5.1～46.6.9 学部長事務取扱となる。
18 代	森 田 章	物 理	昭 49. 6.10～昭 51. 6. 9	
19 代	武 田 曜	物 理	昭 51. 6.10～昭 54. 6. 9	
20 代	伊 東 櫻	化 学 二	昭 54. 6.10～昭 57. 6. 9	
21 代	武 田 曜	物 理	昭 57. 6.10～昭 60. 6. 9	
22 代	小 西 和 彦	生 物	昭 60. 6.10～昭 63. 6. 9	
23 代	黒 田 正	数 学	昭 63. 6.10～平 2. 3.31	
24 代	櫻 井 英 樹	化 学	平 2. 4. 1～平 5. 3.31	
25 代	田 中 正 之	大気海洋	平 5. 4. 1～平 8. 3.31	
26 代	荻 野 博	化 学	平 8. 4. 1～平 11. 3.31	学部長・研究科長
27 代	佐 藤 繁	物 理	平 11. 4. 1～平 14. 3.31	学部長・研究科長
28 代	鈴 木 厚 人	ニュートリノ	平 14. 4. 1～平 17. 3.31	学部長・研究科長
29 代	橋 本 治	物 理	平 17. 4. 1～平 20. 3.31	学部長・研究科長
30 代	花 輪 公 雄	地球物理	平 20. 4. 1～	学部長・研究科長

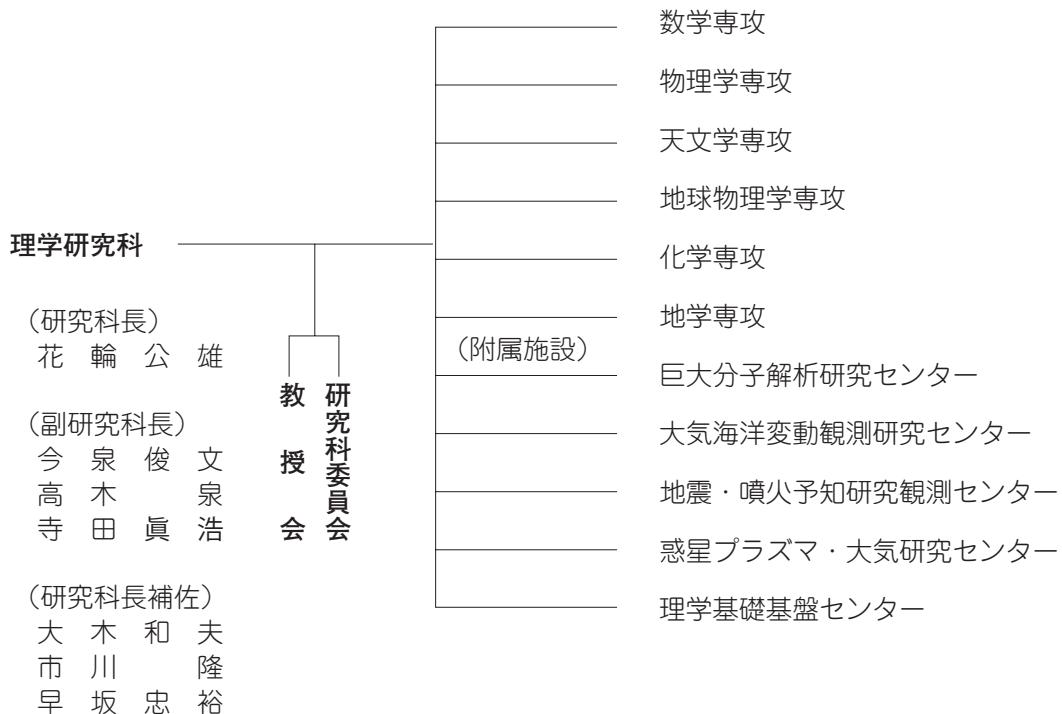
歴代事務長（事務部長）

氏名	期間	備考
山本順恵	昭24.5.31～昭25.6.28	
柴田大三	昭25.8.15～昭27.6.30	
曾我鉗司	昭27.7.1～昭37.6.30	
萱場利春	昭37.7.16～昭43.3.31	
山田利雄	昭43.4.1～昭47.3.31	
武田松一	昭47.4.1～昭52.3.31	
阿部栄一	昭52.4.1～昭54.3.31	
汲川六郎	昭54.4.1～昭55.3.31	
洞口英夫	昭55.4.1～昭59.3.31	
桃井辰一郎	昭59.4.1～昭63.3.31	
大場隆志	昭63.4.1～平2.3.31	
酒井良樹	平2.4.1～平3.3.31	
猪狩勉	平3.4.1～平6.3.31	
阿部経三	平6.4.1～平8.3.31	
金田一夫	平8.4.1～平11.3.31	
大森光徳	平11.4.1～平14.3.31	
長谷川征喜	平14.4.1～平15.3.31	
荒井勝則	平15.4.1～平17.6.30	
渋谷幸雄	平17.4.1～平19.3.31	
工藤昌秋	平19.4.1～平21.3.31	
影山洋正	平21.4.1～平22.3.31	
影山洋正	平22.4.1～	事務部長

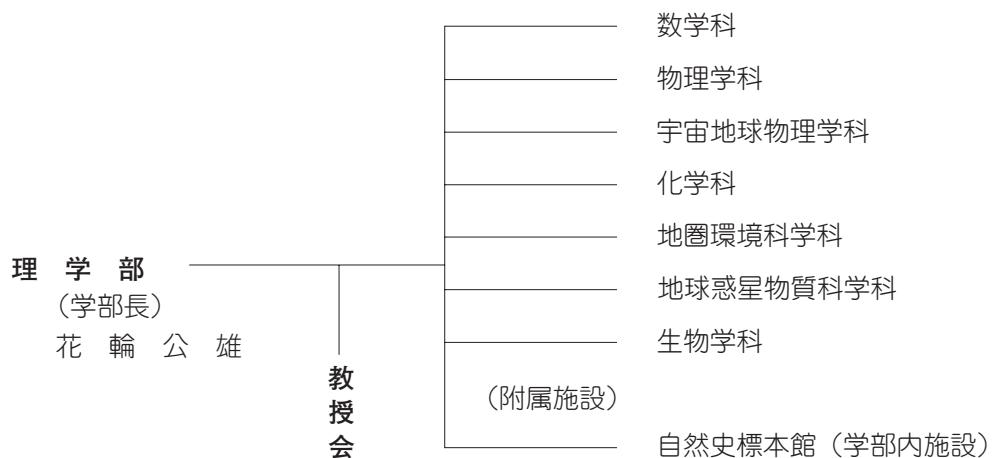
機 構

1 大 学 院

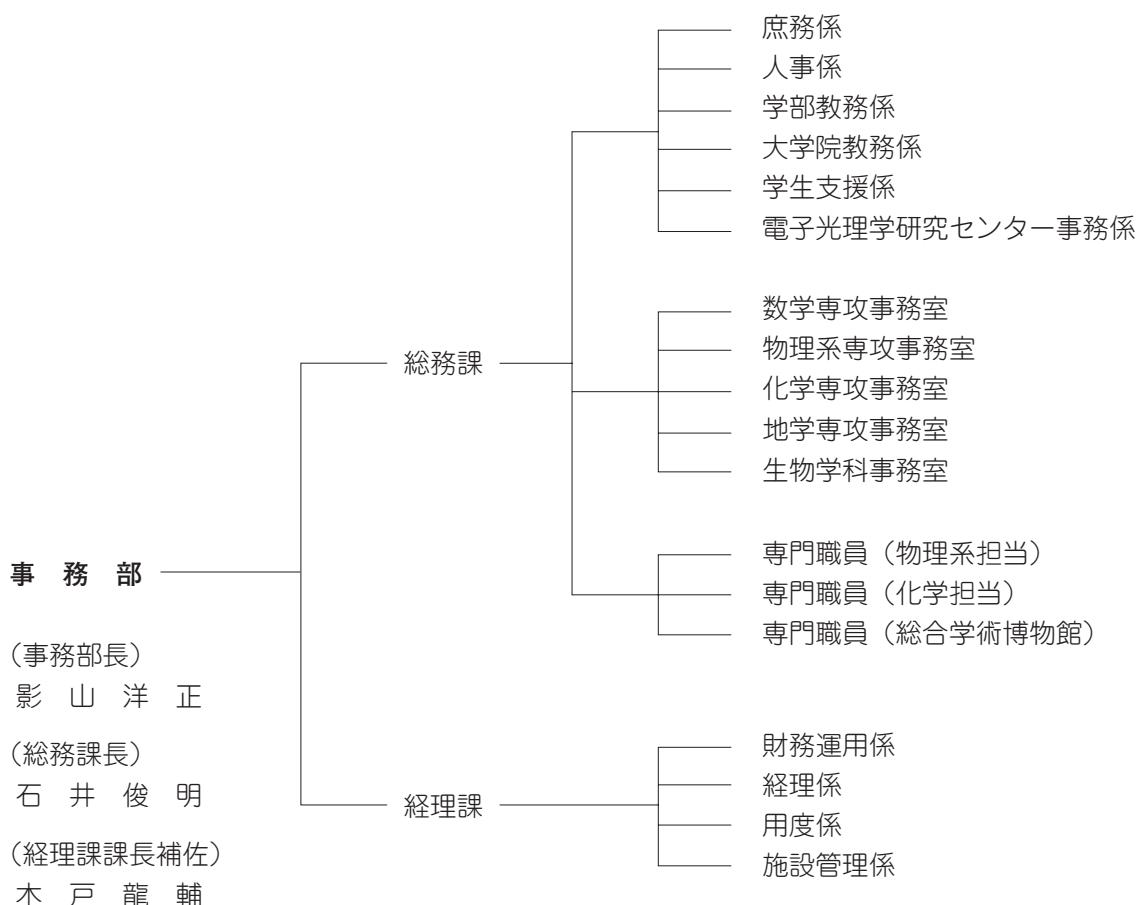
(博士課程)



2 学 部



3 事 務 部



4 専攻及び講座（理学研究科）

専攻・講座名（講座数：28）	専攻設置年	専 攻 長	備 考
数学専攻（5講座） 代 数 学 講 座 幾 何 学 講 座 解 析 学 講 座 多 様 体 論 講 座 応 用 数 理 講 座	昭 28	小 谷 元 予	
物理学専攻（7講座） 量 子 基 礎 物 理 学 講 座 素 粒 子 ・ 核 物 理 学 講 座 電 子 物 理 学 講 座 量 子 物 性 物 理 学 講 座 固 体 統 計 物 理 学 講 座 相 関 物 理 学 講 座 領 域 橫 断 物 理 学 講 座	昭 28	田 村 裕 和	
天文学専攻（2講座） 天 文 学 講 座 理 論 天 体 物 理 学 講 座	昭 33	齋 尾 英 行	
地球物理学専攻（4講座） 固 体 地 球 物 理 学 講 座 太 陽 惑 星 空 間 物 理 学 講 座 流 体 地 球 物 理 学 講 座 地 球 環 境 物 理 学 講 座	昭 28	松 澤 輝	
化学専攻（5講座） 無 機 ・ 分 析 化 学 講 座 有 機 化 学 講 座 物 理 化 学 講 座 境 界 領 域 化 学 講 座 先 端 理 化 学 講 座	昭 28	森 田 明 弘	

専攻・講座名	専攻設置年	専攻長	備考
地学専攻(5講座)			
地圈進化学講座	昭 28	吉田武義	
環境地理学講座			
地球惑星物質科学講座			
環境動態論講座			
比較固体惑星学講座			

5 学科及び科目

学科名	科目名	学科設置年	学科長及び学科委員
数学	数学	明 44	学科長：小谷元子 学科委員：小谷元子・小川卓克
物理学科	物理学	明 44	学科長：田村裕和 学科委員：田村裕和・平山祥郎 前田和茂
宇宙地球物理学科	宇宙地球物理学	大 9	学科長：齋尾英行 学科委員：齋尾英行・松澤暢
化学	化学	明 44	学科長：森田明弘 学科委員：森田明弘・美齊津文典
地圈環境科学科	地圈環境科学	明 44	学科長：日野正輝 学科委員：箕浦幸治・日野正輝
地球惑星物質科学科	地球惑星物質科学	明 44	学科長：吉田武義 学科委員：吉田武義
生物学	生物学	大 11	学科長：田村宏治 学科委員：田村宏治

(備考) 平成6年度より、物理学第二学科は物理学科に、平成7年度より、化学第二学科は化学科に、それぞれ統合・改組された。

6 附属施設

(1) 研究科附属

施設・部門名	設置年	施設の長	備考
巨大分子解析研究センター	昭 53	平間正博	
大気海洋変動観測研究センター (4研究部) 大気変動研究部 海洋変動研究部 熱流量研究部 大気海洋環境研究部	平 12 〃 〃 平 3 〃	中澤高清	
地震・噴火予知研究観測センター (3研究部) 地震予知観測研究部 火山噴火予知観測研究部 海域総合観測研究部	昭 62 〃 〃 平 9	海野徳仁	
惑星プラズマ・大気研究センター (2研究部) 惑星電波観測研究部 惑星分光観測研究部	平 11 〃 〃	岡野章一	

(2) 学部附属

施設名	設置年	施設の長	備考
自然史標本館	平 7	西 弘嗣	

職員数

(平22.4.1現在)

区分	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	事務職員	技術系員	計
客員	(1)	(1)						(2)
連携	(6)	(5)						(11)
委嘱	(8)	(5)						(13)
計	75	74	6	104	3	58	44	364

※()書きは外数で、客員2名及び連携委嘱24名（教授14名、准教授10名）を示す。

休職者、再雇用職員及び外部資金等により雇用する任期付常勤教員を含む。

学生

1 学生定員及び現員

(1) 大学院学生

(平22.4.1現在)

専攻	区分	前 期 2 年 の 課 程				後 期 3 年 の 課 程				計		
		1 年	2 年	計	1 年	2 年	3 年	定員	現員	定員	現員	定員
数学	専 攻	38	33	38	45	76	78	18	5	18	12	18
物理	学 専 攻	91	89	91	101	182	190	46	30	46	23	46
天 文	学 専 攻	9	12	9	8	18	20	4	5	4	1	4
地 球	物 理 学 専 攻	26	22	26	38	52	60	13	9	13	11	13
化 学	専 攻	66	68	66	80	132	148	33	33	33	21	33
地	学 専 攻	32	31	32	34	64	65	16	4	16	6	16
	計	262	255	262	306	524	561	130	86	130	74	130
											118	390
												278

(2) 学部学生

(平22.4.1現在)

		1年		2年		3年		4年		計	
		定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
数 学	科	45	50	45	50	45	52	45	45	67	180
物 理	理 学 科	78	121	78	134	78	81	78	78	95	312
化 学	宇宙地球物理学科	41	41	41	41	42	42	41	41	47	164
	科	70	75	70	71	70	72	70	70	95	280
	地圈環境科学科	30		30		30	30	30	30	35	120
地 球 科 学 系	地球惑星物質科学科	20	48	20	54	20	20	20	20	60	208
	地 球 物 質 科 学 科			20				20	21	20	
	生 物 学 科	40	43	40	43	40	42	40	40	46	160
計		324	337	324	352	324	339	324	406	1,296	1,434

※3・4年次で学科未配置者(は物理系)は物理学科、地学系(は地圈環境科学科)へ算入

(3) 研究生及び科目等履修生

(平 22. 5. 1現在)

	研 究 生	科 目 等 履 修 生	特 別 聽 講 学 生	特 別 研 究 学 生
学 部	1	7	26	
大 学 院	6	0	2	6

2 平成22年度入学者選抜状況

(1) 大学院学生

区 分 専 攻	前 期 2 年 の 課 程				後 期 3 年 の 課 程			
	募 集 人 員	志 願 者 数	志 願 倍 率	入 学 者 数	募 集 人 員	進 学 者 数	編 入 学 者 数	合 計
数 学 専 攻	38	44	1.47	33	18	4(1)	1	5(1)
物 理 学 専 攻	91	110	1.21	89	46	27	3	30
天 文 学 専 攻	9	24	3.00	12	4	5	0	5
地 球 物 理 学 専 攻	26	33	1.77	22	13	8	1	9
化 学 専 攻	66	82(4)	1.15	68(4)	33	27(1)	6(2)	33(3)
地 学 専 攻	32	40(2)	1.03	31(1)	16	1	3(1)	4(1)
計	262	333(6)	1.33	255(5)	130	72(2)	14(3)	86(5)

() 内は、外国人留学生で、内数である。

(2) 学部学生

区 分	募 集 人 員	志 願 者 数	志 願 倍 率	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数
一 般 選 抜	前 期 日 程	222	561 ○11 ※2	2.5	544 ○11 ※2	235 ○5 ※2
	後 期 日 程	58	863	14.9	483	68
A O 入 試 Ⅱ 期	44	132	3.0	132	45	45
計	324	1,556 ○11 ※2	4.8	1,159 ○11 ※2	348 ○5 ※2	333 ○2 ※2

※印は、国費外国人留学生で、外数である。(定員外)

○印は、私費外国人留学生で、外数である。(定員外)

3 修了者及び卒業者

(1) 大学院修了者

専 攻	前 期 2 年 の 課 程			後 期 3 年 の 課 程 *		
	昭30.3～ 平21.3	平21.4～ 平22.3	計	昭30.3～ 平21.3	平21.4～ 平22.3	計
数 学 専 攻	735	33	768	82	3	85
物 理 学 専 攻	1,805	84	1,889	453	20	473
物 理 学 第 二 専 攻	371	0	371	111	0	111
原 子 核 理 学 専 攻	397	0	397	209	0	209
天 文 学 専 攻	241	9	250	103	4	107
地 球 物 理 学 専 攻	784	25	809	192	11	203
化 学 専 攻	1,703	64	1,767	657	14	671
化 学 第 二 専 攻	505	0	505	190	0	190
地 学 専 攻	854	21	875	275	7	282
生 物 学 専 攻	613	0	613	243	0	243
計	8,008	236	8,244	2,515	59	2,574

*東北大学大学院通則第34条第3項による修了者を含む。

(2) 学部卒業者

設置区分 学 科	東 北 帝 国 大 学		東 北 大 学			合 計
	理科大学	理 学 部	理学部(旧制)	理 学 部 (新 制)		
	大3.7～ 大7.12	大8.6～ 昭22.9	昭23.3～ 昭29.3	昭28.3～ 平9.3	平9.4～ 平22.3	
数 学 科	23	404	117	1,564	570	2,251
物 理 学 科	35	418	141	1,600	985	2,726
物 理 学 第 二 学 科				1,083	2	1,085
宇宙地球物理学 (天文分野) 天文地球物理学第一				316	590	1,580
宇宙地球物理学 (地球物理分野) (天文地球物理学第二)		11	49	625		

次のページに続く→

設置区分 学 科	東北帝国大学		東 北 大 学			合 計
	理科大学	理 学 部	理学部(旧制)	理 学 部(新 制)		
	大3. 7~ 大7. 12	大8. 6~ 昭22. 9	昭23. 3~ 昭29. 3	昭28. 3~ 平9. 3	平9. 4~ 平22. 3	
化 学 学 科	42	500	169	1,481	887	3,541
化 学 第 二 学 科				1,004		
地圈環境科学科 (地質分野) (地質学古生物学科) (地学科地学第一)		165	57	477	372	1,313
(地 質 学 科)	20	14				
地圈環境科学科 (地理学分野) (地 球 学 科) (地学科地理学)			34	373		
地球物質科学科 (岩石鉱物鉱床学科) (地学科地学第二)		196	85	623	238	946
生 物 学 学 科		193	74	1,160	576	1,810
計	120	1,901	726	10,306	4,220	15,252
合 計			17,273			

4 論文提出による博士の学位授与者

- (1) 学位令（大正9年7月6日勅令第200号）に基づくもの 944人

- (2) 学位規則（昭和28年文部省令第9号）に基づくもの

年 度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
人 数	16	22	20	21	21	14	17	7
累 計	1,074	1,096	1,116	1,137	1,158	1,172	1,189	1,196
年 度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	△
人 数	11	6	8	9	7	4	2	
累 計	1,207	1,213	1,221	1,230	1,237	1,241	1,243	

5 平成21年度修了者及び卒業者進路状況

(1) 大学院修了者

区分 課程	修了者	進学者	就職者	日本学術振興会特別研究員等	研究員 研究生等	その他
前期2年の課程	236	80	139		1	16
後期3年の課程	59	0	32	8	9	10
計	295	80	171	8	10	26

(2) 学部卒業者

区分 学科	卒業者	進学者	就職者	研究生等	その他
数学科	48	24	17	1	6
物理学科	84	74	4	0	6
宇宙地球物理学科	41	34	6	0	1
化学科	63	57	5	0	1
地圈環境科学科	33	21	8	0	4
地球物質科学科	21	20	1	0	0
生物学科	46	41	1	0	4
計	336	271	42	1	22

6 連携大学院方式

連携大学院方式は、国立及び民間の試験研究機関と研究交流・連携を図り、大学院理学研究科に連携・委嘱分野を設置し、その研究機関の研究者を委嘱又は、客員教授として招へいし、研究領域の多様化、豊富化を通じて教育研究の高度化を図る制度である。

専攻名	連携・委嘱分野	連携研究機関名
物理学専攻	加速器科学	日本原子力研究開発機構 高エネルギー加速器研究機構
	強相関電子物理学	日本原子力研究開発機構 独立行政法人理化学研究所
	量子予計測	NTT物性科学基礎研究所 独立行政法人理化学研究所
地球物理学専攻	固体地球物理学	独立行政法人防災科学技術研究所 独立行政法人海洋研究開発機構
	分離化	独立行政法人産業技術総合研究所
化学専攻	重元素化	日本原子力研究開発機構
	地圈物質循環	独立行政法人産業技術総合研究所 独立行政法人国立環境研究所
	地球内部反応	独立行政法人産業技術総合研究所 独立行政法人物質・材料研究機構物質研究所
		大学共同機関法人自然科学研究機構国立天文台

7 外国人留学生数

(平22.4.1現在)

国籍	学部学生	大学院学生		学部 研究生	大学院 研究生	特別 研究 生	特別 聴学	科等 修	科目 履修生	計							
		博士課程															
		前期2年 の課程	後期3年 の課程														
韓国	2	1	2					2		7							
中国	1	14	13	1	1	2	3			35							
バングラディシュ		2	1							3							
ミャンマー			2							2							
モンゴル	1		2							3							
エジプト			1							1							
インドネシア	1	4	4							9							
タイ			1							1							
フランス			1							1							
アメリカ合衆国			2					5		7							
キルギス			1							1							
イラン		1								1							
ドイツ						1	2			3							
スウェーデン						1	2			3							
フィンランド								1		1							
ルーマニア	1									1							
パキスタン			1							1							
ネパール			1							1							
ベトナム	1	2								3							
コロンビア		1								1							
ロシア		1								1							
マレーシア			2							2							
メキシコ		1								1							
スロバキア	1									1							
オーストラリア		1								1							
トルコ		1								1							
フィリピン		1								1							
イタリア			1							1							
台湾		1						1		2							
カナダ								1		1							
計	8	31	35	1	1	4	17	0	97								

科学研究費等

1 グローバルCOE

平成21年度研究拠点形成費等補助金（研究拠点形成費（機関補助））

(単位：千円)

プログラム名	採択年度	交付金額	
		直接経費	間接経費
分子系高次構造体化学国際教育研究拠点	平成19年度	213,710	64,113
物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開	平成20年度	174,700	52,410
変動地球惑星学の総合教育研究拠点	平成20年度	227,110	68,133

2 平成21年度科学研究費補助金採択状況

(単位：千円)

研究種目名	件数	交付を受けた研究費	直接経費	間接経費
特別推進研究	1	110,100	84,700	25,410
特定領域研究	17	82,200	82,200	
特別研究促進費	0	0	0	
基盤研究(S)	3	115,440	88,800	26,640
基盤研究(A)一般	18	227,240	174,800	52,440
基盤研究(A)海外学術	0	0	0	0
基盤研究(B)一般	26	135,590	104,300	31,290
基盤研究(B)海外学術	3	13,910	10,700	3,210
基盤研究(C)一般	37	52,390	40,300	12,090
萌芽研究	11	18,600	18,600	
若手研究(A)	7	45,240	34,800	10,440
若手研究(B)	36	56,030	43,100	12,930
若手研究(スタートアップ)	4	5,616	4,320	1,296
学術創成研究費	2	156,780	120,600	36,180
奨励研究	1	490	490	
新学術領域研究(領域提案型)	9	119,730	92,100	27,630
新学術領域研究(課題提案型)	2	20,280	15,600	4,680
小計	177	1,159,646	915,410	244,236
特別研究員奨励費	61	45,400	45,400	
合計	238	1,205,046	960,810	244,236

学術交流

1 研究員等受入れ状況 (平成 21 年度)

種 別	受入者数
民間等との共同研究	8
受託研究員	2
受託研修員	0
学振特別研究員（P.D.）	6
計	16

2 外国人研究員等受入れ状況 (平成 21 年度)

種 別	受入者数
日本学術振興会	
外国人招へい研究者	2
外国人特別研究員	9
二国間学術交流・その他	3
客員研究員	3
理学研究科・理学部外国人招へい研究者	6
計	23

3 学術交流協定校

協定大学等	締結年月日
ペンシルベニア州立大学(米国)	1988年11月29日
メルボルン大学理学部(オーストラリア)	1988年3月15日 1998年5月15日更新
ユトレヒト大学生物学部(オランダ)	1993年7月28日 1997年3月更新
アラスカ大学フェアバンクス校(米国)	1995年1月12日 1999年1月12日更新
サセックス大学(英国)	1997年3月17日
ドルトムント大学(ドイツ)	1999年3月2日
スラナリー工科大学(タイ)	1999年6月18日
コペンハーゲン大学(デンマーク王国)	1999年9月20日 2007年8月22日更新
イリノイ大学シカゴ校(米国)	2000年5月1日
吉林大学(中国)	2001年3月1日
復旦大学(中国)	2001年4月19日 2006年4月19日更新
国立台湾海洋大学	2002年3月8日
チュラロンコン大学理学部(タイ)	2003年2月14日 2009年3月20日更新
ゲッチンゲン大学化学研究科(ドイツ)	2003年6月25日
ハイデルベルグ大学化学研究科(ドイツ)	2003年8月19日
聖南大学(中国)	2003年10月15日
韓国水産研究振興院	2004年3月31日
ヨーク大学(英国)	2004年7月19日
中国科学院南海研究所	2004年10月4日
ロシア科学アカデミー極東支部	
太平洋研究所	2004年12月13日
自動制御処理研究所	2004年12月13日
ペトナム国立大学ハノイ校ハノイ科学大学	2005年5月30日
韓国国立公州大学大学院	2006年2月1日
蘭州大学(中国)	2006年9月8日
上海有機化学研究所・中国科学院(中国)	2006年10月12日
中山大学環境科学・工程学院(中国)	2006年11月1日
大連理工大学化工学院(中国)	2006年11月13日
フランス高等師範学校リヨン校	2006年12月8日
ルーベンカトリック大学理学研究科(ベルギー)	2007年8月29日
成均館大学自然科学部(韓国)	2007年9月11日
ディポネゴロ大学水産・海洋科学部(インドネシア)	2008年3月5日
ニュージーランド地質・核科学研究所	2008年3月19日
チュラロンコン大学経済学部(タイ)	2008年3月21日
ロシア科学アカデミーペリヤ支所ソボレフ地質学・鉱物学研究所	2008年11月7日
カーネギー研究機構地球物理学研究所	2008年12月1日
中央研究院地球科学研究所(台湾)	2008年12月4日

予 算

1 平成21年度予算額

区 分	金 額	備 考
運 営 費	5,420,773,903 円	
寄 附 金 事 業 費	107,983,344	
受 託 研 究 費	508,879,882	
受 託 事 業 費	65,232,478	
施 設 整 備 費	51,366,000	
預 り 補 助 金	528,656,003	
計	6,682,891,610	

機械・器具

(平 22. 3. 31 現在)

資 産 区 分	数 量	金 額	備 考
機 械 及 び 装 置	67	573,336 千円	
工具・器具及び備品	2,693	8,511,257	
車両その他の陸上運搬具	20	35,653	
計	2,780	9,120,246	

備考：本調は、50 万円以上の品目である。

標 本 等

1 標 本

保 存 数	標 本 点 数	タ イ プ 標 本 点 数
古 生 物 関 係	1,129,656	8,710
岩 石 ・ 鉱 物 関 係	276,650	
動 物 関 係		
(生 態 進 化 生 物 学 講 座)	300,000	80

2 実験生物系統保存

種 類	保 存 数
哺 乳 動 物 由 来 の 培 養 細 胞	100 種 以 上
ハ ツ ル カ ネ ズ ミ	16 系統
ヤ ナ ギ 科 植 物	200 種

学術研究発表誌(○英文、●和文)

- 東北大学理科報告 第1集(化学) 年1回発行 既刊巻数 81巻(2004)
- 東北大学理科報告 第2集(地質学) 年2回発行 既刊巻数 63巻2号(1996)
- 東北大学理科報告 第3集(岩石・鉱物学・鉱床学) 年1回発行 既刊巻数 17巻1号(1988)
- 東北大学理科報告 第4集(生物学) 年1回発行 既刊巻数 40巻4号(2001)
- 東北大学理科報告 第5集(地球物理学) 年4回発行 既刊巻数 37巻2号(2006)
- 東北数学雑誌 年4回発行 既刊巻数 62巻1号(2010)
- 東北大学理科報告 第7集(地理学) 年2回発行 既刊巻数 57巻1/2号(2010)
- 東北大学理科報告 第8集(物理学・天文学) 年3回発行 既刊巻数 26巻1号(2006)
- 核理研研究報告 年1回発行 既刊巻数 41巻(2008)
- 東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告 不定期 既刊巻数 93号(1992)
- Tohoku Mathematical Publications 不定期 既刊号数 34号(2009)

土地・建物

(平 22. 4. 1 現在)

(単位: m²)

施設名	区分 土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
理 学 研 究 科・理 学 部	青葉山地区敷地内	3	3	15,717	62,206	15,720	62,209
地 震・噴 火 予 知 研 究 観 測 セ ャ ン ダ 一	〃			1,011	3,115	1,011	3,115
〈県内〉							
惑 星 圈 女 川 観 測 所	▲ 43,111	172	235	52	52	224	287
惑 星 圈 藏 王 観 測 所	▲ 29,319			130	238	130	238
惑 星 圈 川 渡 観 測 所	川渡農場敷地内			61	61	61	61
惑 星 圈 米 山 観 測 所	▲ 1,600			101	101	101	101
釜 房 地 震 観 測 点	▲ 144			▲ 5	▲ 5	▲ 5	▲ 5
川 渡 地 震 観 測 所	川渡農場敷地内						
金 華 山 地 震 観 測 点	12,238			2	2	2	2
若 柳 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
藏 王 火 山 観 測 点	▲ 492			6	6	6	6
津 山 広 帯 地 域 地 震 観 測 点	▲ 9						
七ヶ宿 火 山 観 測 点	▲ 340						
気 仙 沼 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 112						
地 球 物 理 学 科 第 二 大 気 境 界 層 観 測 所 (小牛田地区)	▲ 1,038			19	19	19	19
江 島 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
升 沢 地 震 観 測 点	▲ 4						
大 須 地 震 観 測 点	▲ 4						
名 足 地 震 観 測 点	▲ 4						
加 護 坊 山 地 震 観 測 点	▲ 3						
狐 崎 地 震 観 測 点	▲ 2						
米 谷 地 震 観 測 点	▲ 6						
宮 沢 地 震 観 測 点	▲ 4						
品 ノ 浦 地 震 観 測 点	▲ 5						
大 岳 山 地 震 観 測 点	▲ 3						
柳 津 地 震 観 測 点	▲ 1						
笠 岳 地 震 観 測 点	▲ 6						
旭 山 地 震 観 測 点	▲ 5						
大 松 沢 地 震 観 測 点	▲ 3						
宮 戸 地 震 観 測 点	▲ 2						
須 江 地 震 観 測 点	▲ 2						
荒 町 地 震 観 測 点	▲ 9						
燒 石 亦 地 震 観 測 点							
宇 津 野 地 震 観 測 点							
花 山 地 震 観 測 点							
中 垣 地 震 観 測 点							

区分 施設名	土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
〈青森県〉							
深浦地震観測点	▲100			12	12	12	12
階上地震観測点	▲49 735			16	16	16	16
東通地震観測点	▲100			12	12	12	12
〈岩手県〉							
大東総合観測線観測所	▲210						
黒沢尻総合観測線観測点	▲200						
松川火山観測点	▲36						
岩手火山(松尾)総合観測点	▲143			24	32	24	32
岩手山火山観測点	▲465			36	46	36	46
岩手火山(西根)実験井	▲14						
岩手火山(滝沢)実験井	▲14						
三陸地震観測所	5,282			134	346	134	346
三陸地震観測点	▲100			12	12	12	12
滝沢火山観測点	▲100			6	6	6	6
玄武洞観測点	▲102			12	12	12	12
橋場観測点	▲100			12	12	12	12
遠野地震観測所	▲7,674 4,613			247	377	247	377
普代地震観測点	▲110			12	12	12	12
釜石鉱山地震観測点	▲101						
姫神地殻変動観測点	▲2,596						
宮古地殻変動観測点	▲854			12	12	12	12
西根火山観測点	▲80			6	6	6	6
沢内総合観測線観測点	▲35						
鉛GPS観測点	▲5						
〈秋田県〉							
秋田地震観測所	1,053			253	337	253	337
仁別地殻変動観測点	▲1,106			6	6	6	6
田沢湖総合観測線観測点	▲200						
西木総合観測線観測点	▲200						

区分 施設名	土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
五城目総合観測線観測点	▲100						
本荘地震観測所	▲892			165	270	165	270
二ツ井地震観測点	▲1,551			35	55	35	55
秋田焼山火山観測点	▲133						
大湯火山観測点	▲140						
秋田駒ヶ岳火山観測点	▲100						
岩城地震観測点	▲100			12	12	12	12
男鹿地殻変動観測点	▲1,935			6	6	6	6
男神山観測点	▲145						
狙内地震観測点	▲9						
出戸地震観測点	▲36						
院内地震観測点	▲22						
大飯郷地震観測点	▲22						
百宅地震観測点	▲42						
軽井沢地震観測点	▲42						
葛岡地震観測点	▲22						
猿倉地震観測点	▲44						
大須郷地震観測点	▲14						
二ツ石地震観測点	▲5						
二ツ石地震観測点(御獅子ヶ沢)	▲25						
平野沢GPS観測点	▲3						
雄物川GPS観測点	▲4						
新南外GPS観測点	▲4						
中仙GPS観測点	▲4						
〈山形県〉							
温海地震観測点	▲443			35	55	35	55
湯の台火山観測点	▲105						
飛鳥プレート活動総合観測点	▲78			6	6	6	6
八幡中継点	▲1						
白布火山観測点	▲20						

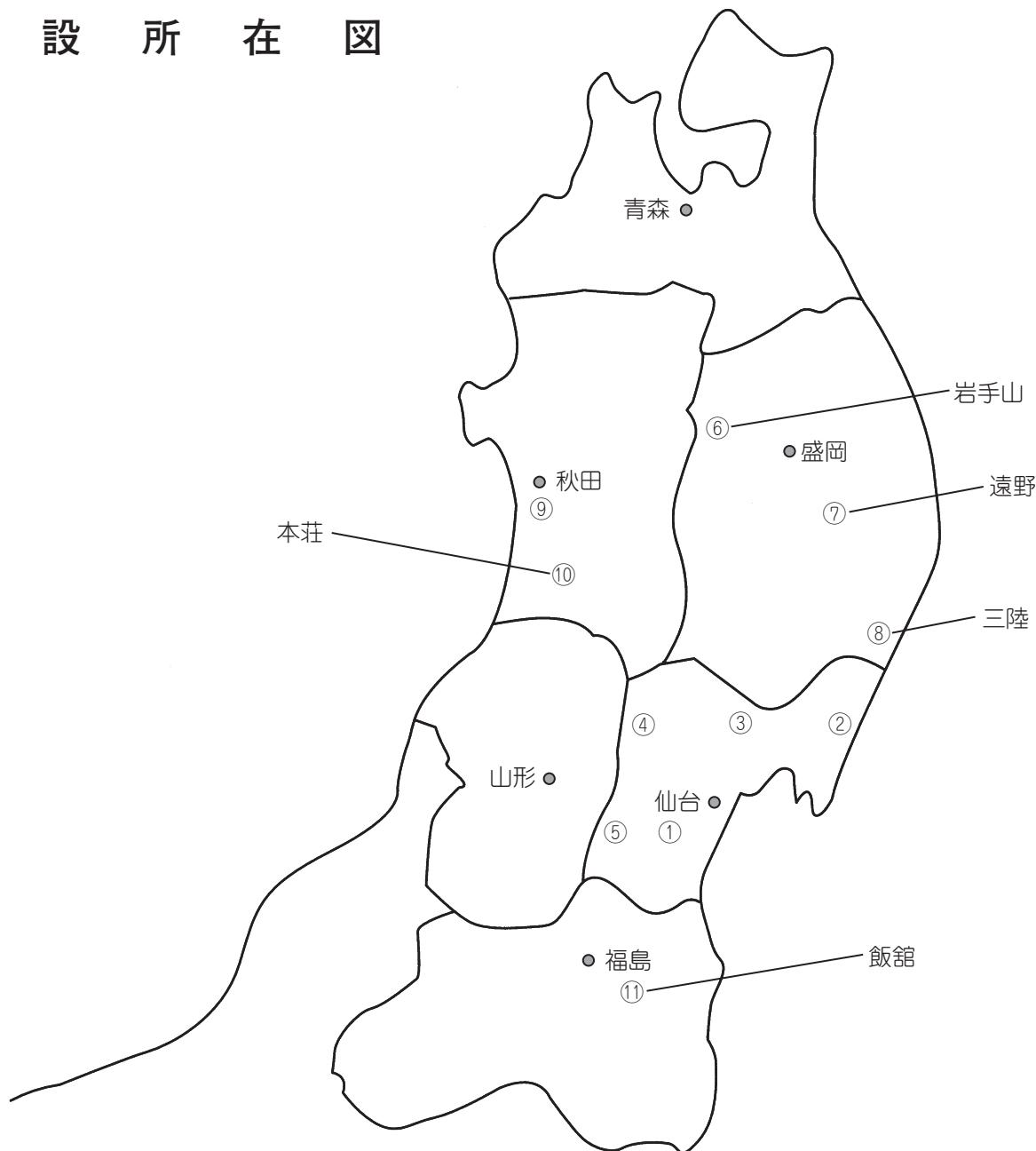
区分 施設名	土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
酒田地震観測点	▲100			12	12	12	12
村山地震観測点	▲110			12	12	12	12
東根気象観測点	▲37						
直世地震観測点	▲46						
白井地震観測点	▲12						
大沢地震観測点	▲12						
北保地震観測点	▲22						
田沢地震観測点	▲22						
大網地震観測点	▲42						
曲川地震観測点	▲22						
加茂地震観測点	▲12						
南山地震観測点	▲12						
添川地震観測点	▲5						
吹浦地震観測点	▲6						
下野明地震観測点	▲4						
牛房野地震観測点	▲20						
湯ノ沢地震観測点	▲6						
（福島県）							
惑星圏飯舘観測所	▲24,092			102	150	102	150
旧開発地理学研究所 (猪苗代地区)	990			208	208	208	208
北阿武隈地殻変動観測点	▲25						
いわき沖地震観測点	いわき沖 プラットホーム内						
安達太良火山観測点	▲192						
磐梯火山観測点	▲788						
微温湯火山観測点	▲220						
南吾妻火山観測点	▲22						
いわき地震観測点	▲251						
金山地震観測点	▲26						
南会津地震観測点	▲260						
吾妻中学校中継点	▲1						

区分 施設名	土地	建物					
		木造		RC・B・S建		計	
		建	延	建	延	建	延
古殿中継点	▲1						
浪江中継点	▲1						
びわ沢原火山観測点	▲5						
三程地震観測点	▲1						
〈新潟県〉							
新発田地震観測点	▲169						
佐渡プレート活動総合観測点	▲133			6	6	6	6
〈栃木県〉							
八溝地震観測点	▲25						
〈福井県〉							
土合皿尾震観測点	▲6						
文室震観測点	▲12						
城有震観測点	▲6						
中山震観測点	▲6						
五幡震観測点	▲30						
中手震観測点	▲22						
柿ヶ原震観測点	▲4						
鹿俣震観測点	▲6						
計	▲124,037 24,911	857	920	▲5 22,083	▲5 74,520	▲5 22,940	▲5 75,440

備考：1 ▲印は借入数量（含無償）を示す。

- 2 理学研究科・理学部及び地震・噴火予知研究観測センター（青葉山地区）は、青葉山地域敷地（工学部、薬学部等含む。）763,934m²内に含まれる。
- 3 川渡地震観測点及び惑星圏川渡観測所は、農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター18,542,442 m²内に含まれる。

施 設 所 在 図



①青葉山地区

巨大分子解析研究センター

大気海洋変動観測研究センター

地震・噴火予知研究観測センター

惑星プラズマ・大気研究センター

自然史標本館

②惑星圈女川観測所

③惑星圈米山観測所

④惑星圈川渡観測所

⑤惑星圈蔵王観測所

⑥岩手火山(松尾)総合観測点

⑦遠野地震観測所

⑧三陸地震観測所

⑨秋田地震観測所

⑩本荘地震観測所

⑪惑星圈飯舘観測所

沿革

明 40. 6	勅令第 236 号により仙台の理科大学及び札幌の農科大学の 2 分科大学をもって東北帝国大学として創立
〃 43. 12	省令第 35 号により、明治 44 年 1 月 1 日理科大学開設公示
〃 44. 3	省令第 12 号により、数学、物理学、化学及び地質学の 4 学科を置く。前 3 学科は同年 9 月 11 日開講
〃 44. 4	初代理科大学長小川正孝（化学）就任
〃 45. 8	向山に附属観測所設置
〃 45. 9	省令第 10 号により地質学科開講
大 4. 8	臨時理化学研究所設置
〃 6. 9	省令第 10 号により応用化学科設置
〃 8. 4	勅令第 13 号により理科大学は理学部となる。
〃 8. 6	2 代学部長林 鶴一（数学）就任、工学部設立とともに応用化学科は工学部に所属換となる。
〃 9. 9	勅令第 395 号により地球物理学講座及び鉄鋼学講座設置
〃 11. 8	省令第 26 号により生物学科設置
〃 11. 12	臨時理化学研究所廃止
〃 12. 4	文部省告示第 263 号により第九臨時教員養成所が東北大學に附設、數学科、物理化学科を置く。
〃 12. 6	3 代学部長日下部四郎太（物理）就任
〃 13. 7	勅令第 157 号により青森市浅虫に附属臨海実験所設置
〃 13. 8	4 代学部長に藤原松三郎（数学）就任
〃 15. 7	地質学科が地質学古生物学（現在の地圈環境科学科）及び岩石鉱床学（現在の地球惑星物質科学科）の 2 学科に分離
昭 3. 7	5 代学部長に真島利行（化学）就任
〃 4. 4	6 代学部長に小林 巍（物理）就任
〃 7. 3	青森市酸ヶ湯に附属八甲田山植物実験所設置
〃 9. 9	文部省告示第 81 号により第九臨時教員養成所廃止
〃 11. 7	勅令第 274 号により天文学講座設置
〃 14. 3	7 代学部長窪田忠彦（数学）就任
〃 15. 10	8 代学部長藤原松三郎（数学）再任
〃 17. 2	9 代学部長小林 巍（物理）再任
〃 20. 1	文部省告示第 54 号により仙台臨時教員養成所數学科設置
〃 20. 4	地球物理学科設置
〃 20. 6	勅令第 24 号により地球物理学が物理学教室から分離、独立教室（現在の宇宙地球物理学科）となる。
〃 20. 6	勅令第 372 号により地理学講座（現在の地圈環境科学科）設置
〃 21. 4	勅令第 205 号により帝国大学官制公布、同時に東北帝国大学官制廃止 このときにおける講座数、定員数は以下のとおりである。

理学研究科・理学部青葉山地区配置図

